

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		急傾斜地崩壊対策事業		路河川名等	秋山			
事業毎の通番		2	市町村名	川上村	箇所名(ふりがな)	秋山(あきやま)		
事業概要	事業目的	当該箇所は川上村の東部に位置し、勾配30~48°、がけ高さ10~35mの急斜面で、保全対象として人家10戸および避難所1施設が存在し、うち一部の人家が土砂災害防止法の特別警戒区域に入っている。現地斜面は長大で直下に人家があり、大雨による斜面の浸食が発生しており、土砂崩落での家屋への被害が懸念される。このため早急に対策を講じ民生の安定を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	急傾斜地法			
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象: 人家11戸、秋山基幹集落センター(地域防災計画における避難所)、 県道L=80m、村道80m						
	着手年度	平成30年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	3.3	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	重力式擁壁工 L=460m H=5m			230,000	109,250	11,500	98,325
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・特別警戒区域の解除						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	人家戸数: 11戸 公共施設数: 2施設 災害時要援護者施設: なし 避難場所、避難路: 秋山基幹集落センター、県道L=80m、村道L=80m						評価
	重要性	過去の災害履歴: あり(平成25年9月の台風18号における土砂流出) 交通遮断による地域経済への影響: 村道(地域防災計画上の位置づけなし)遮断						評価
	効率性	費用便益比(B/C): 3.29 事業期間: 5年間(H30~34) 工法等の比較検討: あり						評価
	緊急性	斜面の高さ: 10~36m 斜面平均勾配: 39° 地質: 段丘堆積物 オーバーハング、遷急線、谷地形、凸地形: あり 植生: 被覆良好 保全対象の位置: がけ下11戸、公共施設						評価
	計画熟度	事業情報の共有: 関係者を中心に周知 地域の取り組み: 消防団による防災活動 地域の合意形成: 事業目的について合意形成が図られている 住民との協働						評価
	所管課意見	地域防災計画に記載された避難所が警戒区域に含まれる。平成25年9月には斜面の崩落があり、県道に土砂が流出した。近隣に避難所の移転適地がなく、施設整備の必要性及び重要性が高い。						採択状況 総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)		
	 <p>位置図</p>	 <p>平面図</p>	
事業概要説明図表	 <p>横断面図</p>	 <p>延長L=460m</p>	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
事業周辺環境	土砂流出状況		 <p>秋山基幹集落センター(地域防災計画における避難)</p>
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は川上村の東部に位置し、勾配30~48°、がけ高さ10~35mの急斜面で、保全対象として人家10戸および避難所1施設が存在し、うち一部の人家が土砂災害防止法の特別警戒区域に入っている。現地斜面は長大で直下に人家があり、大雨による斜面の浸食が発生しており、土砂崩落での家屋への被害が懸念される。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	保全対象として村道、主要地方道梓山海ノ口線、秋山基幹集落センター、人家11戸が存在しており、地元から早期の対策を求められている。	
	③事業説明等の経緯	H21土砂法説明会開催。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に配慮について検討の予定。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	施設整備による特別警戒区域の解除により、付近の土地利用の活性化が期待される。	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 35° 57' 45.4" 東経: E 138° 38' 57.8"	